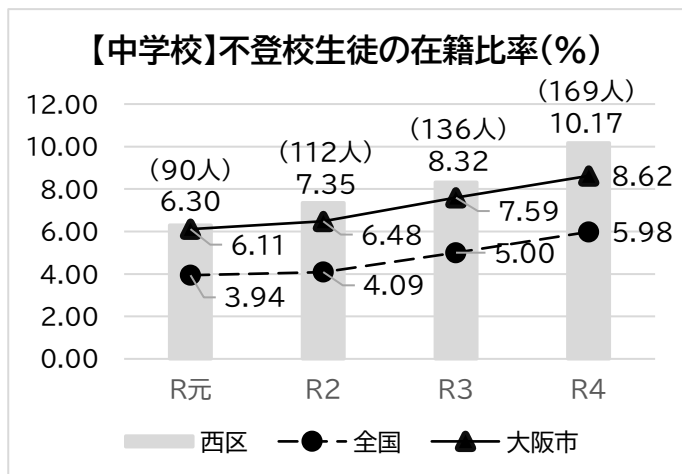
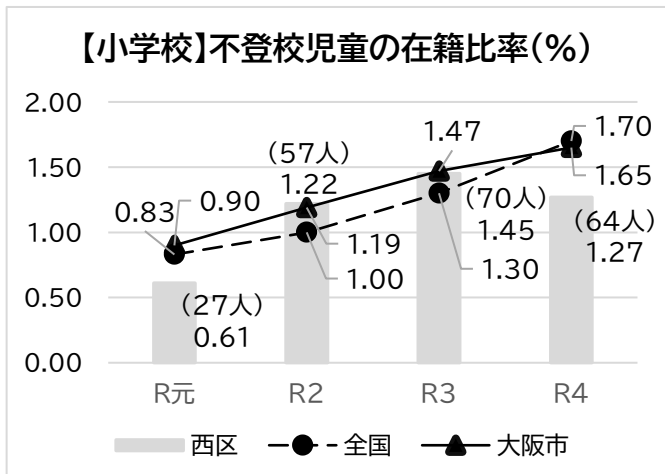


西区不登校支援事業 概要

○不登校の現状と課題について



・全国の小・中学校における不登校児童生徒は、令和4年度末時点で約30万人(299,048人)にまで増加し、過去最多となった。(参考:令和2年度末時点:196,127人、令和3年度末時点:244,940人)

・とりわけ西区中学生について、全国・大阪市全体より在籍者に占める不登校生徒の割合が高い。

・不登校の要因として最も割合の高い「無気力、不安」の生徒の中には、集団になじめなかったり、学校等の特定の場所で話せない状態になったり、漠然とした他者への怖さを抱えていることがあり、これらの生徒には、学校に登校はできるが、教室に入れない・入りにくい問題を抱えている。

・学校と本人の意識にズレがある

学校側に聞いた
小中学生の
不登校の要因

無気力、不安	51.8%
生活リズムの乱れ	11.4
いじめを除く友人関係	9.2
親子の関わり方	7.4
学業の不振	4.9
入学、進級時の不適応	3.1
家庭環境の変化	2.6
家庭内の不和	1.6
教職員との関係	1.2
進路の不安	0.7
学校のきまりなど	0.7
部活動への不適応	0.3
いじめ	0.2

※文部科学省の問題行動・不登校調査 (令和4年度)から

本人に聞いた
不登校のきっかけ
(中学生)

体の不調	32.6%
勉強が分からない	27.6
先生と合わない、体罰	27.5
友達のこと(いじめ以外)	25.6
嫌がらせやいじめ	25.5
生活リズムの乱れ	25.5
よく分からない	22.9
インターネットやゲームの影響	17.3
なぜ学校に行くのかわからない	14.6
部活動の問題	13.3

※文科省の不登校児童生徒の実態調査 (令和2年度)から

・保護者側の意識のずれ及び、情報交換できる場が乏しい



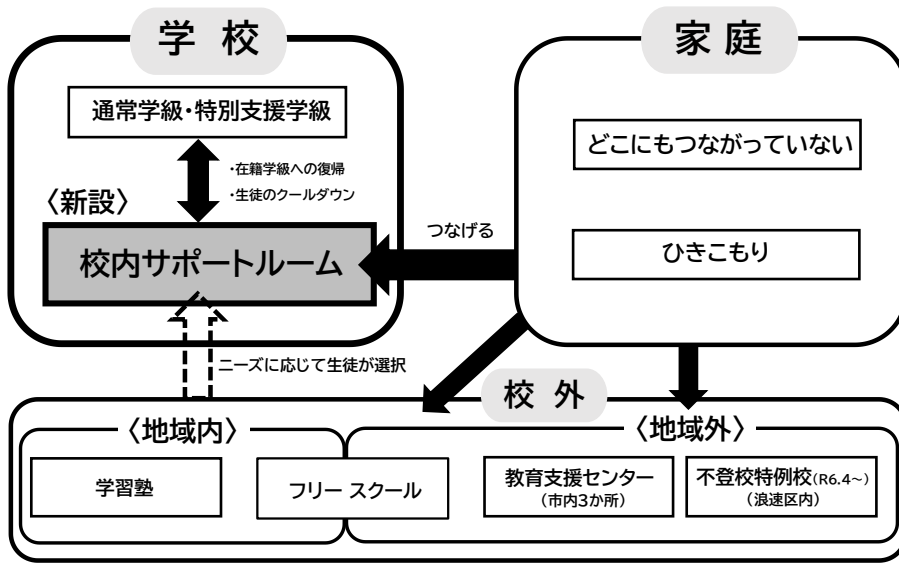
⇒安心して登校し、落ち着いた空間で学習・生活できるように学校内に新たな学びの場(居場所)をつくり、一人ひとりのニーズや状況に応じた支援が必要。

⇒不登校の児童生徒の保護者に対しても、不登校の子どもへの関わり方を理解してもらうことや、家庭や地域で孤立しないように支援するとともに、地域への不登校に関する理解・啓発も必要。

○課題を踏まえた、令和6年度からの取り組み

【1 校内サポートルームの新設について(堀江中学校でモデル設置)】

選択肢を増やせるよう、「居場所」を作る



【校内サポートルームでの取り組み内容】

○学習支援

→ 自学自習を基本に、生徒のニーズに応じてオンライン授業を行う。

○自立活動

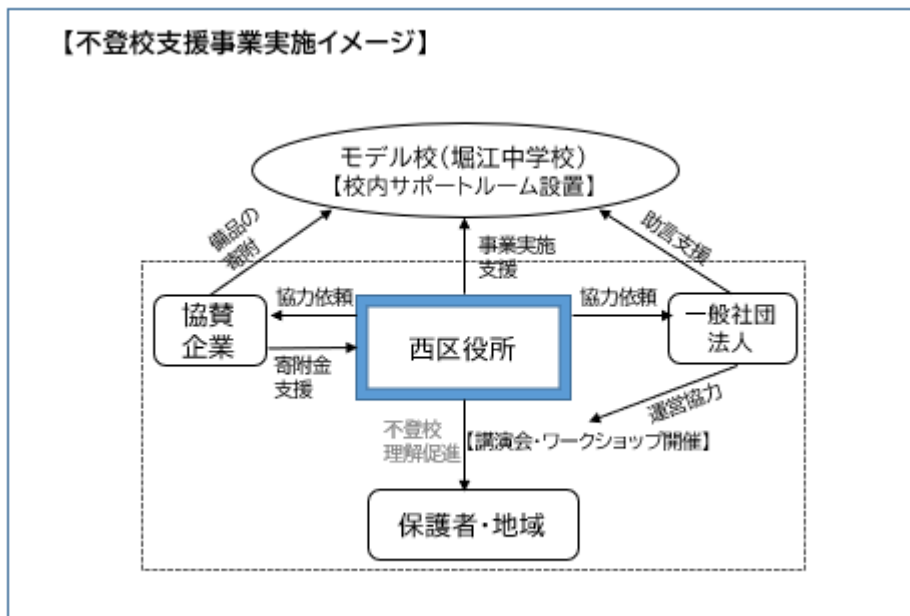
→ 様々な体験活動をととして、ソーシャルスキル向上のための取り組みを実施。

【2 不登校に関する講演会やワークショップの開催】

- ・ 不登校児童生徒の保護者が孤立せず、保護者同士が繋がる場(ワークショップの開催)や、教員や地域への不登校に関する理解促進のための講演会の開催。

【3 西区不登校支援事業のポイント】

- ・ **学校、地域、企業・団体、行政が一体となって取り組む**



⇒ 令和7年度以降モデル実施による効果検証を踏まえ、学校数の拡充を検討。